JEPAオンラインセミナー

ABSC設立へ意思表明

著者見参

わたしの1冊

「SDGsをはじめとする社会貢献は、十分な利益がある大手企業だけでなく、中小企業やスタートアップ企業にこそ挑戦してほしい」

東京・立川市で印刷会社を経営する弘久社の平野芳久社長（68）がこのほど、合同フォレストから『中小企業が成長するSDGs経営5つのアプローチ』を上梓して、その方法を伝授した。

地球環境を守るSDGsは2015年9月、193カ国が加盟する国連サミットで決議され、17の目標が掲げられている。

他人事のように傍観する向きもあるが、平野氏は中小企業でも、自社と顧客の共通価値を見出して実践する「CSV」に着手することで、本業と社会貢献を両立できるという。

古いしがらみからの脱却や廃棄率の低減は、顧客サービスや環境問題に繋がる。近江商人が実践した売り手、買い手、世間にメリットがある「三方よし」の考え方と同じだと説く。

本業と社会貢献を両立させるCSVとは

同書では、①人々に正しい情報を伝える「情報提供型」、②同じ志をもつ仲間を増やす「この指止まれ型」、③ボランティア活動を通じた「活動家型」、④企業の強みや発明から新たな価値を見出す「ブルーオーシャン型」、⑤価値を最大化する取組みで不可能を可能にする「脱しがらみ型」――5つのCSV手法を紹介している。複数を組み合わせて実践することも促す。

弘久社では、「みんなde一歩」活動として、新規取引先の売上げの1％を弱者支援団体に寄付している。「2030年までに全売上高の1％を寄付したい」という。また、営業活動を通じてペットボトルのふたの回収代行をする「エコキャップ活動」も行っている。こうした活動から出会った新規取引先もあり、優秀な人材も集まるようにもなった。

「SDGs経営5つのアプローチ」

1993年にはCSV事業のルーツといえる絵本『とっておきのワンシーン』を出版してもいる。人生で忘れられないシーンを募集し、3000人から寄せられた作品を1・2集にまとめた。その絵本は日本郵便や、かんぽ生命、不二家などが顧客保全ツールとして採用し、10万部発行のヒット作になっている。

ヘルスメーターを製造・販売する㈱タニタも大和書房からレシピ本『体脂肪計タニタの社員食堂』などを発売し、大ベストセラーにした。様々なかたちで人や社会に貢献する方法はある。

SDGsの関連書は数多あるが、老若男女、誰でもができるささやかな活動にも言及する本はほぼない。「どうしても自分が取り組みたい目標がない場合は、SDGsの18番目の目標を自分でつくったっていい」いま、ウクライナの国民に何ができるのか。それについては、ふるさと納税支援のほか、正しい情報を発信して同じ仲間をつくることもいいと思います」

同書が発売されて以降、明治大学の教授から講演依頼があった。日本経営士協会会長が講師を務めるSDGsリーダー研修会では、同書を副教材に採択したいなど、多くの反響がある。発売元は合同出版、本体1500円。（M）